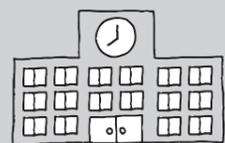




中学校の教師が6年生体育を指導



小中一貫教育

新たな時代を担える
子どもたちを育むために

平成28年4月から「小中一貫教育制度の導入に係る学校教育法」などが施行され、義務教育9年間で小中が連携して学ぶことが可能となりました。

町では、厚真地区と厚南地区に小学校と中学校がそれぞれ1校ずつあり、学校間の距離も近く、子ども同士も身近な存在という利点を生かすため、小中一貫教育の取り組みについて、これまで検討してきました。

今年度から小中一貫教育を導入したことにより今後は、発達段階や教育上の課題に応じた系統性・連続性を強化した教育活動の中で、子どもたちの「つなぐ力（人間関係形成能力・社会形成能力）、拓く力（課題適応能力）を育みます。さらに、「ふるさと教育の充実や授業の工夫改善、英語教育の推進」にも取り組み、9年間で子どもたちの「生きる力」を育んでいきます。

「目指す子どもの姿」を小学校と中学校で共有します

目指す子どもの姿を小学校と中学校で共有し、9年間を見通して学習指導や生徒指導、発達上の課題を考えます。

小学校と中学校の先生がさらに連携します

中学校の教師が小学校へ出向いて5・6年生を中心に教科の専門性の高い授業を行います。また、小学校の先生が中学校の授業を担当することもあります。

厚真町の小中一貫教育

小学生と中学生の交流の機会が増えます

小学生と中学生の交流学習、合同授業など中学生がリーダーシップを発揮する場面や、中学生の姿を通して小学生が成長の目標を持つ機会を作ります。

学び舎は変わりません

「小中一貫教育」というと小学校と中学校で校舎や敷地を共用する施設一体型のイメージがあるかもしれませんが、小学校と中学校の施設はそのまま使用します。

ひとのうごき

令和元年9月30日現在（ ）内は前月比

人口 4,559人 (-12)
男 2,281人 女 2,278人

世帯数 2,143世帯 (-1)

広報あつま

2019年 10月号
令和元年

もくじ
CONTENTS

- 2 ひとのうごき
- 3-6 小中一貫教育
- 7 令和元年北海道胆振東部地震厚真町追悼式
工事のお知らせ
- 8-9 復旧・復興に向けたアンケート調査
- 10-11 北海道胆振東部地震被災者支援情報
- 12 災害復旧工事
- 13 水道料金、下水道および浄化槽使用料の改定
- 14-16 お知らせ
- 17 国道235号ウトナイ高架橋補修工事に伴う通行止め
法務局メモ/臨時職員募集/まちのアイドル
- 18-19 令和元年第3回定例会
- 20-21 まちの話題
- 22 地域おこし協力隊/生活支援員だより
災害ボランティアセンターだより
- 23 厚高インフォメーション/将来の夢
- 24 防災のページ
- 25 健康情報
- 26 保健の掲示板
- 27 子育て支援センター
- 28-29 情報ひろば

今月の表紙
COVER



町独自で行っている小学1年生からの英語の授業。今年度からの小中一貫教育の導入によって取り組みの幅が広がりました。今月は小中の枠組みを越え、9年間を通して子どもを育てる小中一貫教育の全体像とねらいを紹介します。

9月1日～9月30日届出分

※窓口などで、広報紙への掲載について確認できた方を掲載しています

「広報あつま」はホームページでもご覧いただけます

<http://www.town.atsuma.lg.jp/office/>

広報あつまの電子書籍はこちらから。
www.hokkaido-ebooks.jp



明日の厚真への“愛”ことば





小中一貫教育の必要性

昨年度の教育フォーラムなどの中で見えてきた厚真の子どもの姿や課題

平成30年度の教育フォーラムで厚真の子どもの特徴として「素直で、前向き」「一生懸命、言われたことはしっかりと取り組む」「他の町の子に比べ英語ができる」という意見がありました。一方で、高校生のお子さんを持つ保護者の方から、厚真は「みんなが知り合い」という環境のため、知り合いのほとんどい集団の中では、自分をうまく表現できない時期が一时的にあることが課題に挙げられました。このことから、「新たな環境を乗り越えられる子ども」を育てることが求められているといえます。

小中一貫教育の可能性を生かす

「新たな環境を乗り越えられる子ども」を育てるためには、自分が大切な存在だと認識する自己有用感の育成と自分を語れるコミュニケーション力の育成が大切です。そのため小中一貫教育を導入することによって活用できる、教育課程の特例を生かしたコミュニケーション科（英語）を設置したほか、現在検討している、ふるさと教育を中心とした「総合的な学習の時間」の見直しなどによって「厚真のことを自分の言葉で語れる」「根拠のある自信を身につける」ことができるよう、9年間のつながりの中で育んでいきます。

小学6年生の中学校登校

小学6年生が中学校へ登校する日を受け、中学校の校舎で1日を過ごします。

専門科目などは中学校の教師から授業を受け、小学校教師が中心になって授業を行う場合も、中学校教師が参加することで、高い専門性を生かした質の高い授業が可能となります。また、普段関わることのない中学校の多くの教師が小学生と関わることもできます。

さらに、生徒会活動や部活動、中学生との交流等の活動や、小学校の授業より5分長い50分授業の体験などを通して翌年以降の中学校生活をイメージすることができま



(上) 社会科「文明開化」の学習では、2枚の写真から江戸時代と明治時代の街並みの変化について中学校の社会科の教師が詳しい説明を行いました。

(下) 給食も中学校の校舎で食べます。



上厚真小学校
大宮 貴子 先生

これまで中学校登校を2回実施しましたが、中学校でとても丁寧に受け入れていただいたので、子どもたちも中学校への登校を楽しみにしています。「中学校にいても大丈夫」と自分で思ったのかもしれませんが、50分授業も気にならないようですし、授業や登校時の生活など、少しずつ中学校の割合を濃くしていこうと考えています。

教師としては、中学校の先生は専門の知識が深く、勉強になるので、今後の指導の参考にしていきたいと思います。

中学校教師が小学校へ乗り入れ授業

中学校の教師が小学校へ乗り入れて自身の専門教科の学習について指導します。このことで小学生も教科の専門性を生かした授業を受けられるとともに、中学校に入学した時に見知った先生の安心感が得られます。また、先生にとっても入学してくる生徒の書面の引継ぎでは分からない、具体的な様子が分かることなどの利点があります。

現在、特に専門性の高い体育や音楽で試験的に実施し、先生や生徒からの意見を取り入れながら今後の授業数や教科などを考えていきます。

厚真町の小中一貫教育で行っている取り組みを紹介します



(上) 小学6年生体育「サッカー：ボールになれよう」への乗り入れを行い、パスやキックの基本指導の中で個別指導を行いました。



(下) 小学6年生体育「マット運動」での開脚前転などの回転系の技の説明とポイントの指導を行いました。



厚真中学校
青山 裕 先生

小学校に数回行ったことで、小学生の顔が分かるようになりましたし、彼らにも自分のことを知ってもらえるのが良いですね。また、小学校でどのような学習をしているのかが把握できたので、来年、6年生が中学生になった時に「去年こういうことをやったから今年は…」と組み立てられたらと思います。

英語教育を活用した小中交流

世代や環境の異なる人に「伝えたいこと」を相手が「わかるように」伝える力をつけることを目的に、「コミュニケーション科」では、小学校と中学校という垣根を越えて、小学5年生と中学3年生、小学6年生と中学1年生の英語での交流授業を設けました。



小学5年生は中学3年生に自己紹介、中学3年生はそれを聞いてアドバイス、見本の自己紹介を行いました。

テレビ電話を活用して、小学生は取り組んだ英語劇について、中学生は学校行事についてを、それぞれ英語で説明しました。



中学生は、小学生に教えることで「しっかりやらなければ」と頑張っている姿が伺えますし、小学生はその姿を見て「さすが中学生」と憧れを持つとともに自分も将来こうならなくては、という目標を持つことができると思います。

また、普段話さない人と接する機会を多く作ることでコミュニケーション能力を鍛えることができます。

町の英語教育に携わって7年目となりますが、外国人相手に積極的に話しかけるなど確実に成果は出てきていると思います。



英語教育推進コーディネーター
上厚真小学校 根岸 清人 先生



令和元年北海道胆振東部地震厚真町追悼式

追悼式

令和元年北海道胆振東部地震厚真町

北海道胆振東部地震から1年が経過した9月7日に総合福祉センターで令和元年北海道胆振東部地震厚真町追悼式が行われ、ご遺族をはじめ町民、国や北海道など関係者ら約600人が参列しました。

宮坂町長は式辞で「私たちは、かけがえないものをたくさん失いましたが、厚真町を応援してくれる多くの方との新たな出会いがあり、新たな絆が生まれています。全国から寄せられた温かい真心に応え、遠く険しい道の上にはありますが、先人や震災で犠牲になられた方々から託された郷土厚真町の輝きを取り戻すため、町民の皆さまと一丸となって立ち上がり、より一層の努力を重ねてまいります」とあいさつ。



参列者一人ひとりが祭壇に白菊を手向けました。

また、ご遺族を代表して、ご両親を亡くされた早坂信一さん（54歳）が多くの支援に感謝を述べ「突然、家族や友人を失った事実を、そう簡単には受け入れられるものではありませんが、亡くなった人は泣いてばかりいる姿を望まないとします。一日も早く日常が戻ることを祈っています」と話しました。その後、参列者一人ひとりが献花し、犠牲となられた方を悼むとともに、一日も早い復興を願いました。



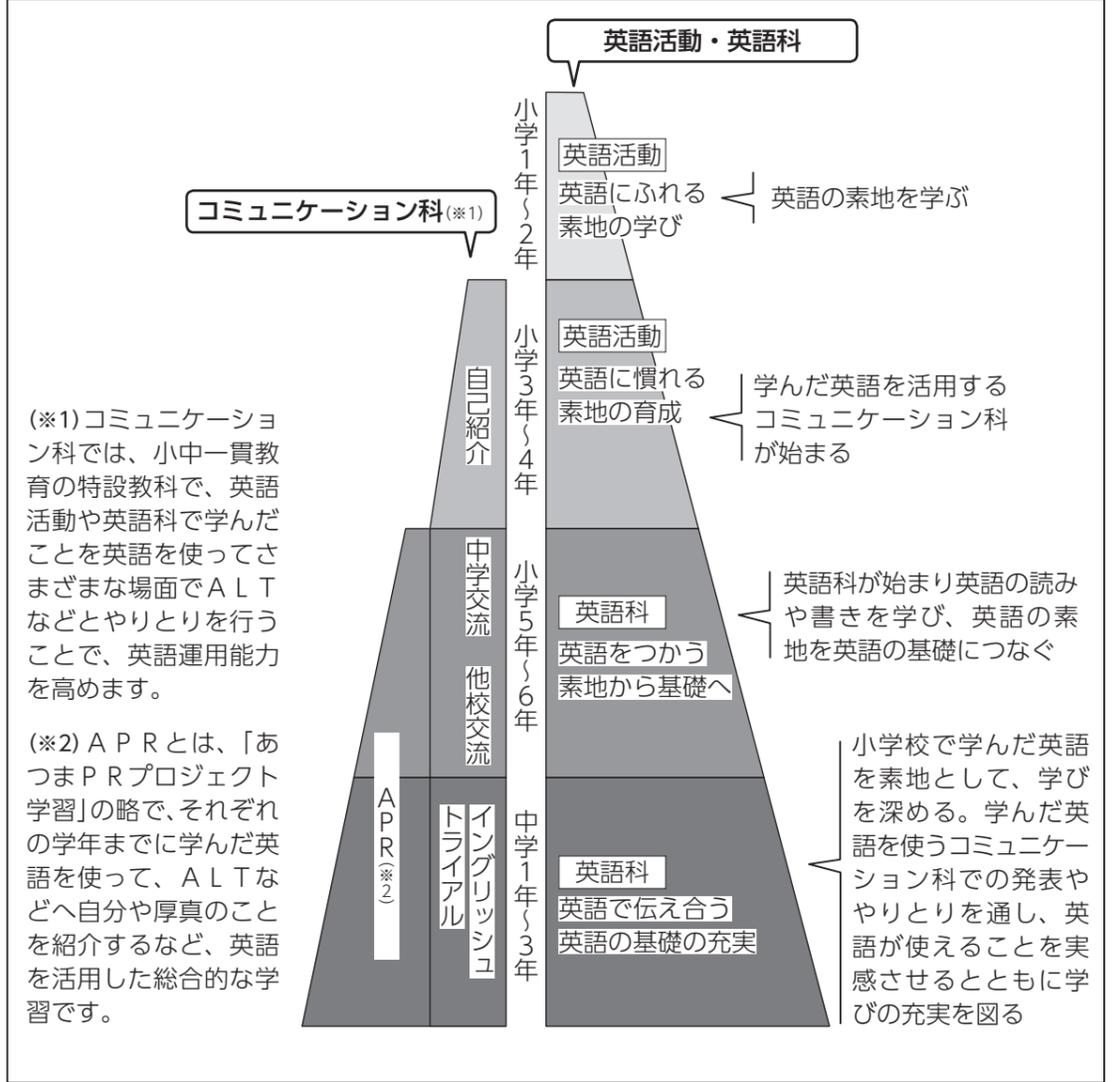
小寺 聖夏さん
発災後多くの町民から話を聞き作詞作曲した復興ソング「羽」など2曲を、ふるさとの復興への思いを込めて歌い上げました。



半崎 美子さん
今年5月に行われた町内イベントの参加がきっかけで出演。「稲穂」や「明日を拓こう」など4曲を披露。

厚真町の夢のある英語教育 世界へ羽ばたく厚真の児童・生徒の育成

社会の国際化・グローバル化が進む中で「夢」を持って生き抜く素地として、義務教育を終えた段階で実践的なコミュニケーション力を中核とする英語能力を身につけ、さまざまな場で豊かな国際性を発揮できる基礎を育成する。



9年間の学びのイメージ

小学校・中学校・高校の担当者で教育推進委員会を設置してカリキュラムや授業の改善に全町の学校を挙げて取り組んでいる英語教育を例に小中一貫教育での9年間を紹介しています。

工事のお知らせ

橋の復旧工事により、次のとおり通行止めとなります。ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします。

厚真大橋 ◇終日車両通行止め(歩行者は通行可) 10月18日(金)～11月6日(水) 20日間 11月25日(月)～12月15日(日) 21日間	上厚真大橋 ◇片側交互通行規制 10月28日(月)までの8時～17時
	宇隆橋 ◇終日車両通行止め(歩行者は通行可) 12月14日(土)まで

問い合わせ 室蘭建設管理部 苫小牧出張所 (☎0144-32-3171)

大切なのは人づくりのスタートラインを小中で担う意識を持って、9年間の中で子どもたちに「生きる力」、社会に出て「役に立つ力」をしっかりと身に付ける教育を行うことだと考えています。しかし、それは学校だけで完結する学習では難しく、学校というハードルを下げて小学生のうちから地域に出て、地域の人と関わり、人とながる練習をしていくことが必要と捉えています。

例えば9月19日の「上小 感謝の日」では、発表づくりを行うにあたりたくさんの方の地域の方にご協力をいただきました。そうした経験で培われた自信とふるさとへの愛情は、将来子どもたちが頑張ろう、踏ん張ろうとしたときの土台であり、よりどころになると思います。子どもたちが調べて終わりではなく、課題を持って調べて、最終的に何らかの形で発信していくなど地域が地域のためにできることにも取り組んでまいりますので、今後ともご協力をお願いいたします。



厚真町小中一貫教育推進委員会委員長
上厚真小学校校長
井内 宏磨 先生

学校という垣根を越えての取り組み